

IVRC2013 ユース部門

作品名

企画概要

IVRC2013 ユース部門への応募をありがとうございます！このファイルは、IVRC2013 ユース部門に参加される皆さんが最初に取り組むことになる企画書の書き方について説明したものです。企画書を書いたことがない方も、どんなことを書けばいいのか分かるようになっています。企画書の書式はこのファイルのものをそのまま使っても構いません。例えば、見出しはボールド体で12ポイント、本文は10ポイントで書かれていますが、このファイルに上書きしてしまえば書式を自分で作る必要はありません。一方で、このファイルに従う必要はありませんので自由に書いて下さいね！

では早速、企画書の最初の部分の「企画概要」を200~300字程度で書いてみましょう。ここに、企画名・企画の意図や目的・どんな体験ができるのかについてわかりやすくまとめます。初めて読む人が体験してみたいくなるような、魅力的でわかりやすい書き方になるよう工夫してみてください。どこがこの作品の一番のポイントなのかをはっきり見つけておくと書きやすくなりますよ！図1のようにイラストも入れて、審査員の心を一気につかみましょう。誰も体験したことのない新しい提案をお待ちしています！ちなみにこの段落は256文字なので、分量の目安にしてみてください。



図1 作品の代表的なイラストや写真を最初にのせるとわかりやすい企画書に！

企画の目的

先ほど企画概要を書きましたね。しかし概要の中では書ききれなかった企画の目的や、どうしてこういう企画を考えたのかといった背景があるかもしれません。その場合は、「企画の目的」としてまとめてあるとわかりやすいです。例えば、(1)こういう新しい体験を味わってもらいたい、(2)この企画を通して体験者にこういうことに気づいてほしい、もしくは、(3)皆さんから体験者に何かメッセージを伝えたい、などが企画の目的になります。

企画書を読む人にこの企画の目的をわかってもらうためには、どうしてそういう目的にしたのか、という背景についても簡単に説明があったほうが良いでしょう。ここでも図2のようにイラストを使うと効果的です！例えば、(1)こういう新しい体験を味わってもらいたい、を企画の目的にするときには、「A や B などの C という体験はできるようになっているが、D という体験はまだ実現されていない」という書き方があります。また(2)体験者に気づいてほしいことがあったら、体験した人に気づいてもらいたいことや理由について説明してみるのもよいでしょう。

この企画のどのあたりが新しいかも、他の作品との違いについて説明すると、より一層説得力が得られますよ！他の作品について説明するときには「参考文献」にもリストアップすることを忘れずに。



図2 文章だけで伝えるのは難しい！イラストを沢山使おう！

体験の流れ

次に「体験の流れ」を書きましょう。「企画の目的」は応募する皆さんが作品をどう考えているかについて書きました。これと異なり「体験の流れ」では、皆さんではなくお客さんがどういう体験をするかについて書きます。つまり体験の流れを書くときのポイントは、体験者の気持ちになって書くことです。作品を体験するために列に並んで、さあ自分の番が来ました。まだ作品を体験すると何が起こるか分からない、楽しみでワクワクする気分になりますね！そういう視点で書いてみましょう。すると同時に、作品をどう見せるとうまくいくかが見えてくるはずです。

まず体験者は図3の様に～～する！という始め方でもよいでしょう。自由に考えてみましょう！ここで大切なことは、文章だけでなくイラストにしてみても、具体的なイメージを確認するという事です。イラストは製作を進めていくためにも大切です。目指したい体験をチームの皆さんの中で一緒に考えるのに役に立ちますよ！ただしどういう仕組みでどういう装置を使うかということは、この「体験の流れ」ではあまり書かなくてもよいでしょう。ここではなく、後にある「システムの構成」にまとめましょう。手品は種を知ってしまうと面白さが減っちゃいますからね！



図3 体験者がまずすること！

体験の流れなので、4コマ漫画のようなやり方でいくつかイラストを並べるととてもわかりやすくなります。図4、図5,,,と続けていくと良いでしょう。イラストの数は増やしても構いません。



図4 体験者は次にこういうことをする

逆にイラストだけからは伝わらないことは、途中で説明を加えたほうがわかりやすくなりますね。



図5 体験の最後、体験者はどんな表情になるのか？！

システムの構成

「システム構成」を書きましょう。企画の概要、目的、体験の流れについて説明しました。しかし、体験するためには、システムが必要になりますね。ではどういうシステムで実現できるかを説明しましょう。ハードウェアやソフトウェアを使うことになるでしょう。「システムの構成」では、ハードウェア・ソフトウェアとそれらの構成について説明しましょう。つまり手品の種明かしをします。

この企画書を読む人はシステムの構成を読んで、このチームは本当に製作ができそうかを判断します。つまり大切なポイントは、こうすれば実現できる！ということを読む人にわかりやすく伝えることにあります。従って、どういうハードウェアを使うか、ハードウェアの機構はどうなっているのか、ソフトウェアにはどういう構成をもたせるのか、センサーやアクチュエータ(例えばモータ)にはどういう種類のものを使うのか、といったことができるだけ具体的に書いてあると良いでしょう。体験を実現するための方法を工夫してみてください。思いついたらすぐ出来る範囲で試してみることも大切です。思いつきだけでは実現できないことは多いです！

じゃあどういう図を書けばいいのかという話ですが、参考にして欲しいのは IVRC2013 のホームページです[1]。このファイルの最後にアドレスが載っているのでアクセスしてシステム図やデバイスの説明に使えるイラストというのはどういうものなのかをチェックしておきましょう！



図 6 システム構成図



図7 製作するデバイス（完成予想図でOK!）

使用機材をリストアップしておきましょう。どれくらいの規模の作品になるかがわかりやすくなります。もちろん細かいものまで全て書く必要はありません。

使用機材（例）：

- ・ ノートブック型コンピュータ 1台
- ・ Web カメラ 1台
- ・ スクリーン 1台

スケジュール

いつ頃どこまで完成しているのかについて、目標を書いておきましょう。スケジュール通りに進んでいけば、決勝戦で展示できる！というスケジュールを組んでおきましょう。万が一に備えて、余裕をもたせたスケジュールにしておくことも大切です。またどういう順番で何から作っていくか、優先順位はどうするのか、ということを考えておくことも大切です。

～7月下旬 ～～の設計，試作

～8月中旬 ～～の設計確定，

注意点

審査時の不公平等をなくすため、表紙を含め企画書内で出自がわかる情報を載せないようにして下さい。参加チーム名、所属団体名、氏名、メールアドレス、個人の特定できる顔写真などが該当します。特に 2012 年度からは企画書にチーム名を一切記載しないこととしていますのでご注意ください。
提出の際には PDF 形式に変換して下さい。Word ファイルは受け取れません。

この「注意点」の段落と見出しは企画書から削除してくださいね！残しておく必要はないですよ！

参考文献

[1] IVRC2013 ホーム > 一般学生部門出場者の方へ > 書類審査 > 過去に応募された企画書の例
<http://ivrc.net/2013/challengers/review>